



今回は緩和ケアについて紹介します。

## ☆☆ 緩和ケアとは ☆☆

2008年施行されたがん対策基本法案の中では、緩和を目的とする医療が早期から適切に行われるようにすることが盛り込まれ、がん患者の療養生活の質の維持向上が掲げられています。緩和ケアは、WHO(世界保健機関)で定められた緩和ケアの定義を基本にして提供されています。つまり、緩和ケアとは、

### ①身体的問題

がんによる痛み・がん治療に伴うつらい症状・痛み以外の様々な症状・身の周りのことを行うことがつらくなっていくなどの症状を鎮(しず)めたり、和(やわ)らげたりする



### ②こころの苦しみ

不安な気持ち・気分の落ち込み・イライラする・孤独に感じる・自分自身の存在価値が消えるのではないかといった漠然とした感情などの心の問題にも対応する

### ③社会的問題

経済的問題・仕事は続けられるのか・家庭内の問題などにも対応するなどの様々な問題に対応していくことを目的とした医療のことです。



緩和ケアというと、終末期医療と思われがちですが、がんと診断された時や治療開始時の心の不安、がん治療による体のつらさを軽減し、Quality of Life(人がより人間らしく生きていくこと)を高めしていく医療を「緩和ケア」といいます。

今まで「緩和ケア」は積極的ながん治療をやめた末期がん患者の苦痛を和らげるための終末期ケアに限定して認識されてきたかもしれませんが、しかし近年、心身の苦痛を緩和する技術が進み、終末期ケアで培われたその技術は闘病中の患者の苦痛の緩和へと役割を広げつつあります。「緩和ケア」はがんを治すための治療と同時に始めることができます。この「がんのステージ(進行度合い)」に関係なく苦痛を緩和するケアを取り入れたがん治療が今、全国で始まっています。

※「がん診療連携拠点病院の緩和ケア及び相談支援センターに関する調査 2008 年度調査結果報告書」より

## ☆☆ 抗がん剤治療と症状緩和について ☆☆

がん自体が原因によるもののほかに、抗がん剤治療に関連したもの(抗がん剤の副作用による悪心嘔吐、しびれ、倦怠感、痛みなど)含まれます。

また、上記したように、治療や今後のことへ不安など心の痛みも出現することがあります。

症状を我慢することで、治療を続けることが難しくなったり、日常生活では食欲がなくなったり、動けなくなったりするなどの影響がでることもあります。

がまんしないで、主治医などにきちんと苦痛を伝え、症状緩和の治療を受けるようにすることも、抗がん剤治療を受けるうえで大切なことです。

\* 当院には、緩和ケアチームやがん相談窓口が設置されています。それぞれのパンフレットに相談内容や問い合わせ場所が記載されていますので、相談したい方は担当者までご連絡ください。

